

は じ め に

熱 海 則 夫

放送教育開発センターでは、国立高等専門学校協会教材企画委員会と共同で、映像教材と印刷教材からなる「高等専門学校用共通教材」の研究開発を行ってきた。その成果として、まずは、昭和62年度に、「基礎生物」10巻及び「生命科学」15巻からなる「生物」を完成し、全国の高等専門学校に配布することとなった。

引き続き、技術革新の著しい分野の共通教材として「新素材」の研究開発に着手し、平成2年度には「金属材料編」7巻及び「半導体材料編」3巻を、また、平成3年度には「無機材料編」4巻及び「有機材料編」4巻を制作し、配布のはこびとなった。

「高等専門学校用共通教材」は、映像の特性をいかし、教室内では提示し難い実験・試験等を充分にもりこんだ内容を有している。高等教育機関における教授法改善が求められている今日、この共通教材の活用は、高等専門学校における授業の活性化に大いに貢献するもの、と思われる。

共通教材の制作とならび、重要なことは、教材の評価調査である。本センターにおいては、制作された高等専門学校用共通教材を対象に2回の評価分析を実施し、その結果を『高等専門学校用「生物」の開発』（平成2年刊行）、『高等専門学校用共通教材の利用状況に関する調査研究』（平成4年刊行）にまとめ、公表した。最初の評価調査においては、主としてビデオ教材制作上の諸問題が浮きぼりにされ、次の調査においては教材の利用上の諸問題が指摘された。

今回、本報告書でとりあげるのは、平成3年度配布の「無機材料編」及び「有機材料編」を対象として、平成5年度に行った評価調査の結果である。本調査は、文部省専門教育課の協力を得て、北は北海道旭川から南は九州佐世保にいたる全国各地の高専教官34名を研究協力者に委嘱し、実施することとなった。

そして、研究協力を賜った高専教官からは、本報告書に述べるように、研究・教育における専門的な見地から詳細にわたるご意見が寄せられ、共通教材のあり方を考える上で教えられるところが大であった。

高等専門学校用共通教材の制作は、平成5年度配布の「複合材料編」で一連の「新素材」関係教材が完結し、昭和60年度から発足した企画が一段落する。本センターでは、新たに平成5年度より共同研究の公募が開始され、高等専門学校においても研究スタジオを共同利用した教材の制作が行われることとなった。従来の共通教材と並び、新たな形態をもった教材も今後、次々に生まれてくるものと考えられる。高等専門学校における授業の活性化につながる、多様性をもった教材開発のあり方が問われている時期にさしかかっている、といえよう。